

平成 26 年 4 月 30 日

静岡経済研究所

NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
静岡市葵区追手町 1-13
TEL054-250-8750

平成 26 年4～6月期

静岡県内主要産業の四半期見通し

～『横ばい』が12業種、『やや下降』、『下降』がそれぞれ4業種～

現在（平成 26 年 1～3 月期）の業況

平成26年3月実施の静岡県内主要産業（20業種）の四半期見通し調査では、現在（1～3月期）の業況は、『好調』が1業種、『順調』が5業種、『普通』が7業種、『低調』が6業種、『不調』が1業種となり、久々に明るさを取り戻した。

平成 26 年 4～6 月期の見通し

平成26年4～6月期の見通しは、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動を免れられず、20業種中、『横ばい』が12業種で、「民生用電機部品」「住宅」「産業用紙」「食品スーパー」の4業種が『やや下降』、「自動車販売」「自動車部品」「大型小売店」「家電量販店」の4業種が『下降』となった。

担当：出版担当 望月 毅

消費税増税の影響は免れないも、景気腰折れは回避か

(1) 業界景気の現況について

県内主要産業20業種の現在（平成26年 1～3 月期）の業況は、『好調』が 1 業種、『順調』が 5 業種、『普通』が 7 業種、『低調』が 6 業種、『不調』が 1 業種となった。

前回（平成25年12月）調査との比較では、消費税率引上げを前にした駆け込み需要の盛り上がりで「自動車販売」が『順調』から『好調』に、「大型小売店」、「家電量販店」の 2 業種が『普通』から『順調』に、「食品・飲料」、「家庭紙」、「産業用紙」、「食品スーパー」の 4 業種が『低調』から『普通』にそれぞれ 1 ランク上昇した。一方、2 月の低温で客足が伸びなかった「観光・レジャー」が『普通』から『低調』に 1 ランク下降した。

(2) 業界景気の見通しについて

平成26年 4～6 月期の業界景気見通しは、20業種中、『横ばい』が12業種、『やや下降』が 4 業種、『下降』が 4 業種となった。

業種別にみると、生活必需品のため駆け込み需要の反動が小さいとみられる「食品・飲料」、「家庭紙」、民間企業の投資意欲が底堅い「工作機械」、「建設」、「情報サービス」の計 5 業種が『普通』のまま、消費抑制・節約志向が響きそうな「製茶」、「外食」、「観光・レジャー」、駆け込み需要の反動減で企業活動停滞の影響を受けそうな「運輸・倉庫」、「リース」、「人材派遣」の計 6 業種が『低調』のまま、市場は底打ちしつつも完成車メーカーの海外部品調達比率が高まりそうな「二輪車部品」は『不調』のまま、それぞれ『横ばい』の見込み。

『(やや) 下降』予想は計 8 業種で、いずれの業種も消費税増税の影響が出てくると予想される。そのうち「民生用電機部品」、「住宅」の 2 業種は、3 月までの受注が残っていることや一部の底堅い需要などにより、『順調』から『やや下降』、売上減少が避けられないものの、在庫過小などの市場環境などから増税の影響が比較的小さいとみられる「産業用紙」、「食品スーパー」の 2 業種が『普通』から『やや下降』の見通し。高額商品を扱うゆえに駆け込み需要の反動を直に受けそうなのは 4 業種で、「自動車販売」は『好調』から、「自動車部品」、「大型小売店」、「家電量販店」は『順調』から、それぞれ『下降』が見込まれる。

なお、半期調査業種では、需要低迷が続く「繊維」が『低調』のまま、増税前の既契約分の住宅着工向けを残す「製材」が『普通』のまま、それぞれ『横ばい』の見通し。



消費税増税に伴う駆け込み需要の発生により、1～3 月期の県内産業は久々に活況を呈したが、4～6 月期は、その反動を避けることができない。ただし、一部業界では、売上の落込み幅は事前の予想よりも軽微との声が聞かれ、また、県内中小企業でも大手企業の賃上げに追随する気配が出ているなど明るい動きもみられることから、景気の腰折れを免れつつ、夏以降、再び回復軌道に乗ることが期待できそうな状況にある。